

トカラ列島諏訪之瀬島・平島・小宝島における2011年秋季の鳥類の記録

平田和彦¹・平田泰彦²

The report of the birds in Tokara Islands (Swanose I., Taira I. and Kodakara I.) in the fall of 2011

Kazuhiko HIRATA¹ and Yasuhiko HIRATA²

はじめに

トカラ列島は東アジアにおける鳥類の主要な渡りの経路として重要な地域であり、渡りの時期の鳥類相を明らかにすることは、東アジアにおける鳥類の渡り行動を解明し、生息地保全を進める上で重要である（関ら，2011）。渡りの途中の鳥類の偶発的な出現や滞在期間の短さを考慮すると、体系的な調査に加えて、日和見的な観察による情報の蓄積もまた必要と考えられる。春季はトカラ列島を訪れる研究者や野鳥観察者が多く、記録も散見されるが（例えば、川路ら，1987；所崎ら，1988），一方で秋季の情報は乏しい。

筆者らは2011年秋季にトカラ列島諏訪之瀬島，平島，小宝島を訪れ（図1），鳥類を観察した。トカラ列島の鳥類相については関ら（2011）に詳しいが，今回確認された鳥類には，9月のトカラ列島，あるいは各島で初めて確認された種も含まれていたため，ここに報告する。なお，分類体系は日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会（目録編集委員会），2012）に準拠して記述する。

1 観察地と観察行程

諏訪之瀬島に2011年9月22日9時52分から同日16時51分まで滞在し，切石港から集落，榊木戸牧場，川上牧場，ナベダオ桜，元浦港，諏訪之瀬島飛行場を巡った。平島に同22日17時44分から24日8時54分まで滞在し，南之浜港から集落，奥山，東之浜を巡った。小宝島に同24日12時25分から25日8時13分まで滞在し，小宝島港から湯泊集落，城之前漁港，ヘリポートまで，島を一周する道路を巡った。平島では集落と南之浜港とを23日23時～24日0時30分頃に往復して散策したことを除き，すべての島

で日中に観察を行った。洋上では，航行中のフェリーとしまから，日中に断続的に観察を行った。

2 観察記録と考察

各島の初記録種，または季節的に特筆すべき種，主な優占種を中心に，以下に島ごとに記述する。なお，図の説明文の括弧内のアルファベットは撮影地（S: 諏訪之瀬島，T: 平島，K: 小宝島），数字は撮影日を示す。

(1) 諏訪之瀬島

諏訪之瀬島では3日9科10種と未同定種1種を確認した。

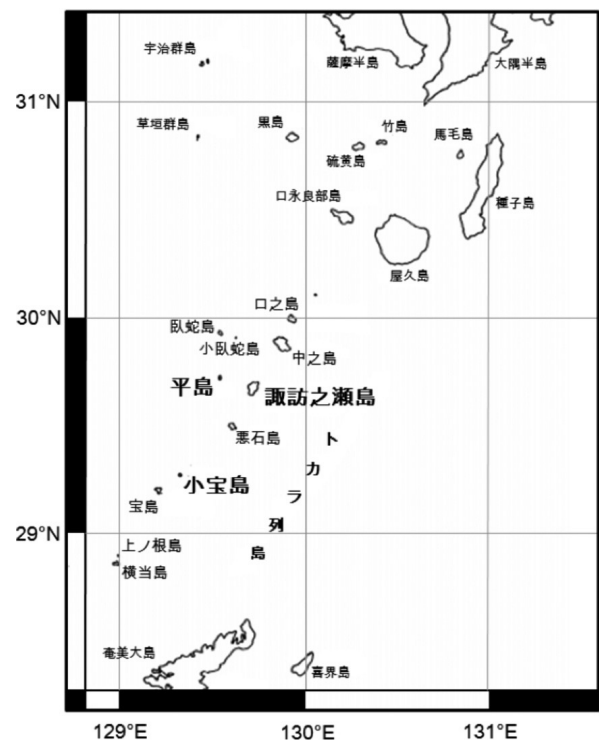


図1. 観察地位置図

¹ 北海道大学大学院水産科学院資源生態学領域. 〒041-8863 函館市港町3-1-1

² 京都市立芸術大学音楽学部弦楽専攻. 〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6

諏訪之瀬島初記録の種として、ハシボソガラス *Corvus corone* が確認された。本種は集落内で観察された。

クサシギ *Tringa ochropus*, アカショウビン *Halcyon coromanda* が、9月の諏訪之瀬島において初めて記録された。クサシギは元浦港の岸壁上で休息する個体が、アカショウビンはナベダオ桜から集落までの舗装道路を横切る個体がそれぞれ1羽ずつ観察された。とりわけ、クサシギは過去に諏訪之瀬島では5月に認められているのみで(関ら, 2011), 本報告が初めての秋季の記録となる。

諏訪之瀬島で記録されたヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*, メジロ *Zosterops japonicus*, エゾビタキ *Muscicapa griseisticta* (図2)をはじめとした多くの鳥は、主に集落内の道端、畑などの開けた土地で観察された。

このほか、22日14時45分頃に、諏訪之瀬島飛行場の滑走路上でムナグロ属の一種 *Pluvialis* sp. を高速走行中の自動車から確認したが、種の同定には至らなかった。なお、諏訪之瀬島において過去にムナグロ属の記録はない。

(2) 平島

平島では7目18科35種と未同定種1種を確認した。

平島初記録の種として、レンカク *Hydrophasianus chirurgus*, ハシボソガラスが確認された。レンカクは非生殖羽1羽で、24日8時頃に宮之上牧場の斜面に沿って西方から飛来し(図3), 斜面中腹の舗装道路沿いに着地したのち(図4), 再び西方に飛去した。地上では頭部を上下させる警戒行動が見られた。ハシボソガラスは集落内で観察された。

カルガモ *Anas poecilorhyncha*, キジバト *Streptopelia orientalis*, リュウキュウヨシゴイ *Ixobrychus cinnamomeus*, ダイサギ *Egretta alba*, センダイムシクイ *Phylloscopus coronatus*, ツメナガセキレイ *Motacilla flava* が、9月の平島において初めて記録された。リュウキュウヨシゴイ1羽は寺の向かいのイモ田で休息していたが(図5), 何度か舗装道路沿いの竹藪内に潜り込んだり、イモ田の畦に出てきたりを繰り返していた。飛去時に雨覆と風切の色を確認して同定した(図6)。ダイサギ1羽(図7)は寺の入り口付近の沢のように水が滴っている所や南之浜港の西側の転石海岸で、カルガモ(図8)は寺の入り口や貯水

池で、キジバトとセンダイムシクイ1羽(図9)は集落内の道端の樹上で観察された。ツメナガセキレイは、少なくとも5羽以上が平島小中学校のグラウンドで盛んに地面を歩き、採餌していた(図10)。

レンカク, ビンズイ *Anthus hodgsoni*, アカマシコ *Carpodacus erythrinus*, クロジ *Emberiza variabilis* は、これまでトカラ列島において9月に記録がなかった種である。ビンズイ(図11)とクロジ(図12)は島立神社付近の地上でそれぞれ1羽ずつ、アカマシコ(図13)は集落内の畑で体色の茶色い個体が少なくとも3羽観察された。

9月の平島における記録が乏しいアカヒゲ *Erithacus komadori* とコイカル *Eophona migratoria* (関ら, 2011)についても、観察状況を記述する。アカヒゲは24日6時30~40分頃、千年ガジュマルから貯水池までの道沿いで、幼鳥と思われる1羽を観察した(図14)。地面や側溝に降り、採餌していた。コイカルは23日14時45~50分頃、平島小中学校のグラウンドの西縁にある樹木に止まっている頭部が黒くない個体1羽を、小中学校の校庭から観察した(図15)。採餌や鳴くなどの行動は観察されなかった。観察個体はイカル *E. personata* 幼鳥に酷似したが、初列風切および三列風切先端の白色部が明瞭で大きい点、上尾筒の色彩が背に比べて淡い点を同定の根拠とした。

エゾビタキ, ツメナガセキレイ, キセキレイ *M. cinerea* (図16), コホオアカ *Emberiza pusilla* (図17)などが優占した鳴禽類は集落内の道端、畑やグラウンドなどの開けた土地とその周辺で、サギ類やカモ類などの水禽類はイモ田で、猛禽類は上空で観察された。アカハラダカ *Accipiter soloensis* は早朝に平島小中学校上空でタカ柱を作って上昇気流に乗る約50羽の群れが見られ(図18), 前夜は平島で就寝していたものと思われた。トビ *Milvus migrans* (図19)やチョウゲンボウ *Falco tinnunculus* (図20), チゴハヤブサ *F. subbuteo* (図21), ハヤブサ *F. peregrinus* は日中を通じて御岳の稜線に沿ってしばしば帆翔していた。23日深夜の散策時には、陸上、南之浜港内の海上ともに、鳥類は確認されなかった。

このほか、24日6時50分頃に、平島小中学校のグラウンドでセッカ *Cisticola juncidis* と思われるスズメ目鳥類 *Passeriformes* sp. (図22)を確認したが、同定には至らなかった。この個体は同時に観察されたツメナガセキレイの群れと同様に、地上で何かをつ

いばんで採餌していた。

(3) 小宝島

小宝島では5日9科18種を確認した。

小宝島初記録の種として、アカハラダカ、アカモズ *Lanius cristatus*、コホオアカが確認された。アカハラダカは1羽で集落上空の低い高度を日中に飛翔していた。アカモズ(図23)は1羽が日中にヘリポート付近の丈の高い草本に止まっていた。コホオアカは湯泊温泉付近の荒れ地上で採餌する2羽が確認された。

ササゴイ *Butorides striatus*、アマサギ *Babulcus ibis*、アオサギ *Ardea cinerea*、クロサギ *Egretta sacra*、サシバ *Butastur indicus*、ハヤブサ、モズが、9月の小宝島において初めて記録された。ササゴイはまだ薄明るい早朝に横瀬海岸沿いの舗装道路を自転車で走行中、1羽が道端の樹上から飛び出してきた。前夜はそこで就寝したものと推測された。アマサギは城之前漁港の西側から横瀬海岸沿いに3羽の群れで飛翔したり(図24)、南風原牧場で牛のそばを歩いて虫を採餌したりしていた(図25)。頭部の橙色味がやや強い個体、淡い個体、完全に白い個体が1羽ずつ観察された。クロサギは黒色型1羽が小宝島港の東に広がる岩礁上で採餌していた(図26)。アオサギは小宝島沿岸の洋上を飛翔する個体や、小宝島港の西に広がる岩礁(図27)や小宝島港の工事中の大きな岸壁で休息する個体が同時に最大5羽観察された。サシバ、ハヤブサはいずれも1羽ずつ、竹之山の周辺を旋回していた(図28)。ハヤブサは時折ミサゴ *Pandion haliaetus*(図29)と干渉していた。モズは島北部の低地を中心に散発的に見られた。

(4) 洋上

洋上では、オオミズナギドリ *Calonectris leucomelas* とカツオドリ *Sula leucogaster* の2目2科2種を確認した。フェリーとしまからは、オオミズナギドリは悪石島以南の海域よりも、口之島から諏訪之瀬島までの海域で多く見られた。このほか、小宝島から沖を飛翔する群れも観察された(図30)。カツオドリは25日11時頃に、諏訪之瀬島から平島までの海域で、約20~30羽の群れで採餌を行っていた。この海域では、空中に飛び出すトビウオ科魚類 *Exocoetidae* sp. が多数観察され、少なくとも一部の個体はこれを捕食していた(図31)。

3 総合考察

全行程を通じて、10目23科44種と未同定種2種の鳥類を確認した(表1)。ほとんどの種は亜種まで同定できなかった。例えば、小宝島のアカモズは、逆光条件下での観察であったため、亜種を同定できなかった。ただし、諏訪之瀬島と平島で観察されたヒヨドリ(図32)は、やや暗色の体羽から、トカラ列島で繁殖している亜種アマミヒヨドリ *H. a. ogawae*(日本鳥学会(目録編集委員会), 2012)と同定した。平島と小宝島で観察されたツメナガセキレイはすべて、明瞭な白い眉線から、亜種マミジロツメナガセキレイ *M. f. simillima* と同定した。平島で観察されたハクセキレイ *Motacilla alba* は、明瞭な過眼線があり、背の灰色が薄くなく、喉の黒色部が腮にまで及ばないことから、亜種ハクセキレイ *M. a. lugens* と同定した。平島で少なくとも3羽が観察されたサンショウクイ *Pericrocotus divaricatus* は、額の白色部の幅が狭かったことから、すべて亜種リュウキュウサンショウクイ *P. d. tegimae*(図33)と同定した。

諏訪之瀬島と平島で初めて記録されたハシボソガラスについて、観察状況を詳細に記録していなかったが、嘴が太くない点でハシボソガラス *C. macrorhynchos* と識別できた。

全行程を通じた個体数や遭遇頻度から判断すると、2011年9月下旬のトカラ列島においては、エゾビタキ、コホオアカ、ツメナガセキレイが優占しているように感じられた。滞在期間の長かった平島では、ツバメ *Hirundo rustica* やヒヨドリも多数観察された。科レベルでの種数を比較すると、サギ科やタカ科が多数記録された。一方、しばしばトカラ列島の代表的な種とされるアカショウビンやアカヒゲは全行程を通じて1羽しか確認されなかったが、これにはハビタットごとの観察努力量が山の中に比べて集落やその周辺の開けた環境に偏っていたことが関係しているかもしれない。

9月のトカラ列島においてレンカク、ビンズイ、クロジ、アカマシコの4種が初めて記録されたが、このうちレンカクはトカラ列島において5月にしか記録がなく、クロジとアカマシコは6~10月を通じて初めての記録であった(関ら, 2011)。本報告は、これらの種にとってトカラ列島が秋の渡りの中継地としても利用されることを初めて示すものである。鹿児島県レッドデータブック(鹿児島県環境生活部環境保護課, 2003)に掲載されている種は、絶滅危

惧Ⅱ類のリユウキュウヨシゴイ、ハヤブサ、アカヒゲ、準絶滅危惧のミサゴ、分布特性上重要なツバメ、以上5種が記録された。このうちリユウキュウヨシゴイは奄美大島、加計呂麻島、徳之島以外では稀とされる（鹿児島県環境生活部環境保護課、2003）。

本報告の短い滞在期間における観察記録からも、分布や渡りに関するいくらかの新たな知見を見出すことができた。今後、トカラ列島の鳥類相を詳細に把握してゆく上で、調査や観察が十分に行われていない島や季節における情報のさらなる蓄積が必要であろう。

謝辞

諏訪之瀬島では民宿浜原荘の伊東すみ子氏に、平島では島民の日高利成氏に、小宝島では島民の岩下秀行氏に大変お世話になった。とりわけ、レンカクの観察においては日高氏の協力によるところが大きい。文献収集およびトカラ列島の鳥類相に関する情報収集においては、姉崎 悟氏、宇佐見依里氏に労をいただいた。姉崎氏にはさらに、本稿をていねいに読んでいただき、有益なご助言をいただいた。種同定や未同定種の検討においては、北海道大学大学院の先崎理之氏、西沢文吾氏にご意見をいただいた。以上の方々のご厚意に、記して感謝の意を表す。

引用文献

- 鹿児島県環境生活部環境保護課（2003）鹿児島県絶滅のおそれのある野生動植物 動物編＜鳥類＞—鹿児島県レッドデータブック—。財団法人鹿児島県環境技術協会，鹿児島。39-81.
- 川路則友・迫 静男・高良武信（1987）トカラ列島平島における春期の鳥相。日本鳥学会誌 36: 47-54.
- 日本鳥学会（目録編集委員会）（2012）日本鳥類目録改訂第7版。日本鳥学会，三田。
- 関 伸一・所崎 聡・溝口文男・高木慎介・中村 昇・ファーガス クリスタル（2011）トカラ列島の鳥類相。森林総合研究所研究報告 10: 183-229.
- 所崎 聡・加藤敬史・中吉香織・佐藤淳子（1988）1988 春期トカラ列島平島・中之島における鳥類調査。鹿児島大学野鳥研究会，鹿児島。

1. Graduate School of Fisheries Sciences, Hokkaido University. (khirata@fish.hokudai.ac.jp)
2. Faculty of Music, Kyoto City University of Arts.

表 1. 2012 年秋季にトカラ列島で記録された鳥類一覧

目	科	和名	学名	瀬訪之瀬島				平島				小宝島		洋上	備考	写真
				22	22	23	24	22	23	24	25	24	25			
カモ目	カモ科	カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>			●									9T	図8
ハト目	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>			●									9T	
ミズナギドリ目	ミズナギドリ科	オオミズナギドリ	<i>Calonectris leucomelas</i>									●				図29
カツオドリ目	カツオドリ科	カツオドリ	<i>Sula leucogaster</i>										●			図31
ペリカン目	サギ科	リュウキュウヨシゴイ	<i>Leobrychus cinnamomeus</i>			●									9T	図5,6
		ササゴイ	<i>Butorides striatus</i>												9K	
		アマサギ	<i>Babulcus ibis</i>									●			9K	図24,25
		アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>						●			●			9K	図27
		ダイサギ	<i>Egretta alba</i>						●						9T	図7
		コサギ	<i>Egretta garzetta</i>										●			
		クロサギ	<i>Egretta sacra</i>										●		9K	図26
チドリ目	チドリ科	ムナグロ属の一種	<i>Pluvialis</i> sp.	●												
	シギ科	クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	●											9S	
	レンカク科	レンカク	<i>Hydrophasianus chirurgus</i>												T,9	図3,4
タカ目	ミサコ科	ミサコ	<i>Pandion haliaetus</i>										●			図30
	タカ科	トビ	<i>Milvus migrans</i>												K	図19
		アカハラダカ	<i>Accipiter soloensis</i>										●			図18
		サンバ	<i>Butastur indicus</i>										●		9K	
ブポウソウ目	カワセミ科	アカシヨウビン	<i>Halcyon coromanda</i>	●											9S	
ハヤブサ目	ハヤブサ科	チヨウダンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>													図20
		チヨウハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>													図21
		ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>										●			図28
スズメ目	サンシヨウクイ科	サンシヨウクイ	<i>Pericrocotus divanctatus</i>													図33
	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>												9K	
		アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>										●		K	図23
	カラス科	ハンボソガラス	<i>Corvus corone</i>												S,T	
		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	●									●			
	ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>													
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	●												図32
	ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>													
	ムシクイ科	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>												9T	図9
	メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	●												
	ヒタキ科	アカヒゲ	<i>Erithacus komadori</i>													図14
		インビョドリ	<i>Monticola solitarius</i>	●												
		エゾヒタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	●									●			図2
		サメヒタキ	<i>Muscicapa sibirica</i>													
		コサメヒタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	●												
	セキレイ科	ツメナガセキレイ	<i>Motacilla flava</i>												9T	図10
		キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	●									●			図16
		ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>													
		ピンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>													
	アトリ科	アカマシコ	<i>Carpodacus erythrinus</i>												9	図11
		コイカル	<i>Eophona migratoria</i>												9	図13
		コホオアカ	<i>Emberiza pusilla</i>												K	図15
		クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>												9	図17
	不明	不明	<i>Passeriformes</i> sp.												9	図12
																セツカに似る

【備考欄の凡例】 S:瀬訪之瀬島初記録, T:平島初記録, 9S:9月の平島初記録, 9T:9月の平島初記録, 9K:9月の小宝島初記録, 9:9月のトカラ列島初記録.



図2. 優占したエゾビタキ (S, 22)



図3. 飛翔するレンカク (T, 24)



図4. レンカク (T, 24)



図5. リュウキュウヨシゴイ (T, 23)



図6. 飛び立ったリュウキュウヨシゴイ (T, 23)



図7. ダイサギ (T, 24)

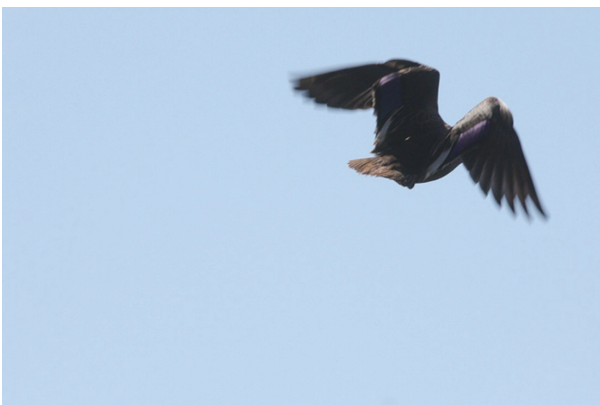


図8. カルガモ (T, 23)



図9. センダイムシクイ (T, 23)